

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/09/19号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

CPI上昇でゴールド1680ドル割れ

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



これまで1700ドルを完全に割ることがなかったゴールドですが、先週は1680ドルというサポートをブレイクしたことでストップ売りが発動され、一時1654ドルまで下げました。その動きのきっかけとなったのがCPI。年率8.1%の市場予想に対して、8.3%という高い数字となり、コア指数は0.3%の予想の倍である0.6%。ここまでインフレが収束しつつあるとして、リスク資産に資金を振り向けてきた投資家が一挙にポジションを閉める方向に動き、株、債券、暗号資産そして貴金属まで一斉に売られ、再びドルに資金が集中しました。今週のFOMCにおいて0.75%の利上げはほぼ確実、1%となる確率もFedWatchでは30%に上昇し、インフレ鎮静はまだ時間がかかり、結果的に経済不況を招くこととなってもまずはインフレを鎮静することがFRBの最大目標ということがクリアになったということです。今月0.75%そしておそらくは次11月のFOMCでも0.75%という見込みが強くなりそれがゴールドにとってはこれまで破れなかった1680ドルのサポートを割り込む引き金となりました。先週のレポートに書いた下落のシナリオの方がそのまま実現された形です。「一方インフレが高止まりということになれば、ゴールドにとっては厳しい状況が続くということになり、ふたたび1700ドルトライとなるでしょう。どちらにしても本格的に現在の取引レンジを抜けるとすればFOMCのあとになるでしょう。」年末に向けてゴールドにとっては難しい時間となるでしょう。もし11月の利上げが1%になればゴールドの1600ドルトライもあり得るでしょう。例年ゴールドのアノマリーでもある年末年始安、その後の上昇というパターンに今年もなりそうです。来年の上昇は、インフレ上昇が落ち着きFRBの金利上げが終わるといった状況下でのゴールド買い戻しというシナリオです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールド以外の貴金属-PGM12

「PGM価格の動き」

「プラチナ」(続き)

プラチナ独自の要因としては、その需要の4割を占める自動車触媒が最も重要であり、つまり自動車の売り上げが直接その需要に関係してきます。プラチナが主にディーゼル車の触媒に使われているので、ディーゼル車の売り上げがプラチナの自動車触媒需要にとってもっとも大切です。2015年はフォルクスワーゲン社による自動車触媒実験の不正事件が発覚した年であり、ディーゼル車の主要なマーケットであった欧州においてディーゼル車からガソリン車へのスイッチがおこるきっかけとなりました。この年にプラチナとゴールドの価格が逆転したのは象徴的な出来事だったと言えるでしょう。パンデミックにより投資家はゴールドへの投資を増やした一方、自動車の生産および販売は低迷、プラチナの自動車触媒需要は減少しました。その結果ゴールドは上昇、プラチナは低迷となり、その値差はより大きなものになったのです。しかし、このゴールドに対する割安さに注目する投資家が今後増える可能性はあります。また、燃料電池車 (FCV) や再生可能エネルギーにより生産された電気水電解を行いクリーン水素を取り出すという将来的な水素社会への流れでのプラチナ触媒としての需要を考えた長期的な投資資金の流入があれば、このレベルの価格でのプラチナ投資は考える価値があるのではないのでしょうか。

(円建てプラチナとゴールドの過去10年)



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

